

「高度経済成長期教育史」研究部会（第3回）

日時：2022年5月20日（金）13:00～15:00

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：米田俊彦・大島宏・須田将司・鳥居和代・西山伸 兼任研究員

吉久知延所長・金沢千秋・川上智子（野間教育研究所事務局）

欠席：山口和人

内容：高度経済成長期教育史 各自研究テーマについて

（1）西山伸研究員「『京都大学百二十五年史』にみる高度経済成長期」

『京都大学百二十五年史』通史編の執筆者として、高度経済成長期の記述を抜き出す

◆「第2編 京都大学 第2章 拡大期」がちょうど1956-1969年にあたる

- ・理工系の大幅拡充、学科・講座・学生数
- ・附置研究所の相次ぐ設置
- ・原子炉実験所、アメリカとの結びつき
- ・教養部（分校の統合）
- ・学生気質
- ・60年安保
- ・寮問題
- ・大学紛争

（2）大島宏研究員「高等学校の大衆化をもたらしたものは何か？」

◆高等学校大衆化の実現過程の検討：なぜ文部省の抑制方針は失敗したのか？

- ・「教育の機会均等」×政策の意思
- ・ベビーブーム世代の進学問題

1 高度経済成長期の高等学校の歴史的位

進学率の上昇、男女差の解消 → 高等学校教育の大衆化

2 高度経済成長期の高等学校をめぐる課題と対応

課題：経済成長への対応、高校生徒急増への対応

（機会均等 高学歴志向 高校全入運動など）

↓

政策：多様化 適格者主義 「後期中等教育」

（入学難・水準維持・多様な進学先（職業訓練校・各種学校）を想定するも）

⇒ 抑制政策は失敗

・次回研究会 7月1日（金）13:00～ 米田・須田研究員（対面予定）